

1. 事業の概要

シカ、イノシシ等については、個体数の増加に加えて、本来生息していなかった地域へ生息域を拡大させており、食害による希少昆虫の絶滅や高山植物の減少、森林の消失などの生態系被害の発生や農業被害が深刻化している。また、最近では住宅地や観光地への出没による人身被害や電車や車との衝突など、生活環境の被害も増加している。近年、被害対策の進展により、ニホンジカやイノシシ等の捕獲数は増加傾向であるものの、依然として被害の状況は改善されないことから、さらなる抜本的な対策が必要である。そのためには、全国のみならず県ごとの個体数を把握した上で、必要な対策を計画的に実施することが重要である。

本事業では、特に対策実施の緊急性が高いニホンジカ及びイノシシについて、分布域、個体数及びそれらの変動状況の把握・推計等により、国が全国的な視点から都道府県別の捕獲目標を設定するなど、科学的な根拠をもって強力に指導力を発揮するための情報を整備する。

2. 事業計画（業務内容）

（1）ニホンジカ調査

都道府県毎に生息密度に関する現地調査及び生息状況等に関連するデータの収集を行うとともに、統計手法により都道府県別の個体数推定及び将来シミュレーションの試行を行い、捕獲目標数を試算する。

（2）イノシシ調査

全国の生息域を5ブロック程度に分けて、捕獲数等の情報をもとに各ブロックの個体数推定及び分布域推定を行う。

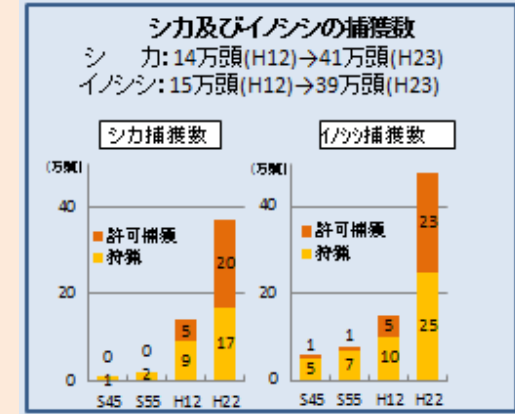
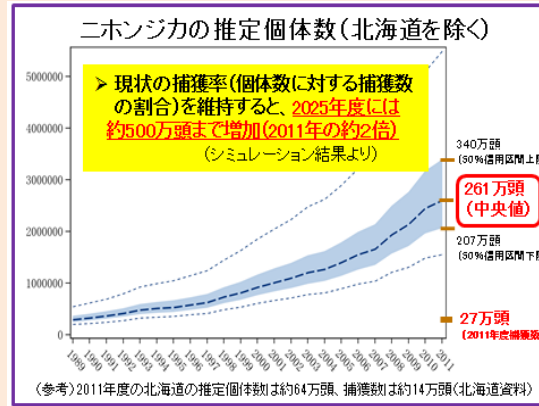
3. 施策の効果

得られた成果を踏まえ、国が科学的根拠をもって強力に指導力を発揮することにより、各都道府県における捕獲が促進される。

このことをもって、「生物多様性の維持・回復」、「国土の保全」、「農山村の振興」等を推進し、国民の健全な社会経済活動の維持・向上を図る。

現状と課題

- ニホンジカ、イノシシ等野生鳥獣の生息域の拡大・個体数の増加により、**自然環境への影響**や農林水産業被害が深刻化。
- 鳥獣捕獲の主たる担い手である**狩猟者の減少・高齢化**により捕獲従事者が不足しており、鳥獣保護管理に携わる**人材の育成**及び捕獲体制の強化等が急務。
- 平成25年9月、環境省において、統計手法を利用して**シカ及びイノシシの全国における個体数を推定し公表**。全国的な観点で対策を強化するためには、都道府県別の個体数推定値を算出し、それぞれの捕獲目標を設定することが必要。



限りあるマンパワーと予算を効率的かつ効果的に活用することが重要であり、戦略的な事業実施が不可欠

甚大な被害を及ぼしている鳥獣の生息状況等調査事業

■ 対象種・・・ニホンジカ、イノシシ

- (ニホンジカ)
- ・農作物被害に加え生態系への影響が甚大。かつ、広域に移動。
 - ・増加率が高いため、総個体数を減らすことが重要

都道府県毎に個体数の把握と、捕獲目標の設定が急務。

- (イノシシ)
- ・農作物被害が主であり、加害個体の捕獲が重要
 - ・個体数の多い地域、分布拡大域の先端での捕獲が重要

地域別個体数や分布状況の把握が急務。

■ 事業内容

- ・全国的な生息状況・生息密度等の調査
- ・統計手法を用いた個体数推定及び将来予測

＜ニホンジカ: 都道府県別＞

＜イノシシ: 広域ブロック別＞

国が都道府県別の捕獲目標を設定するなど、科学的根拠をもって強力に指導力を発揮。都道府県が作成する特定鳥獣保護管理計画に反映し、対策を抜本的に強化(H26以降)